

令和7年度木曽地区水田作検討会を開催しました

○実施日 12月12日（金）

○場 所 木曽合同庁舎 講堂

○内 容

12月12日（金）に木曽合同庁舎において、ＪＡ木曽、全農長野、長野県農業共済組合木曽支所、町村、関東農政局長野県拠点及び木曽農業農村支援センター等の関係機関が参集し、今年度の水田作の作柄や栽培上の課題について報告し、次年度に向けた技術対策について協議する水田作検討会を開催しました。

ＪＡ木曽から今年は昨年より更に1等米比率が低下し、2等以下の格付けの主要因は昨年度に引き続きカメムシによる斑点米であり、次に挙げる要因としては、南部における高温登熟障害による白未熟粒であるとの報告がありました。

支援センターからは、今年度農業共済組合木曽支所と連携して実施した「斑点米カメムシ類の適期2回防除の効果確認調査」の結果から、2回防除の効果が確認できたこと、また水田内の雑草の繁茂により防除効果が低下することについて報告しました。また、昨年課題となった「高温年における全量基肥肥料の肥切れによる減収対策」として、追加で穂肥を施用する試験を実施したところ、肥切れが解消し増収効果が認められた結果を報告しました。

来年度の計画として、斑点米カメムシ類の対策として、苗箱施薬と出穂後の2回防除を組み合わせた体系の効果を試験すること、高温年における全量基肥肥料の肥切れ対策としての追肥指導等、木曽地区の水田作技術の向上を目指し、関係機関が連携して取り組むことについて意識統一ができました。



写真：令和7年度木曽地区水田作検討会